

ヨーロッパひとり旅。

こんな体験

あなたもいかが？

Part 1

ヒグチ サトシ

# 脱ツアー旅行！ 個人旅行は未知との遭遇

第一弾：親切なおばさん  
～ レマン湖の畔の横断歩道で

ヨーロッパ旅行中に体験した  
個人旅行ならではの話

ヒグピー書房 定価 無料



昼前に無事ジュネーブに到着した私は、ジュネーブの代名詞でもあるレマン湖に向かって石畳のゆるやかな下り坂を歩いていた。通りの両側には年季が入った石造りの重厚な建物が立ち並んでいる。しかしその窓からはパソコンが見えたりする。古い建物なのに今なお現役であることに気づかされる瞬間だ。

「ここは金融関係のオフィス街なのかな？」と想像を巡らせつつ湖に向かって坂を下りきると、レマン湖を周回する大通りに出た。

今までのビジネス街という印象から一変、レマン湖により視界は一気に開け、観光地ならでわの活気が伝わってきた。湖には今日も名物の大噴水が空に向かって生き良いよく噴射されていた。その向こうには、アルプス山並みが見える。よい天気だ。

湖の周りに並ぶレストランは開店の準備している。それぞれの人達が、観光客を向かえる準備のために忙しそうに動き回っていた。

私は湖畔に行くため、湖を周回する大通りを渡るべく、信号が青になるのを待っていた。私以外にも数人が青信号になるのを待っていた。その時である。50歳代くらいのおばさんが私に近づいてくるなり、目が合った訳でもないのに突然、私に何やら話しかけてきた。

一瞬、道でも聞かれているのかと思ったが、しかし、どうみても旅行者風のアジア人に道を尋ねるのはおかしいと思いつつ、まだ信号が赤なので道を渡る事も出来ず、その場で一方的に話しかけるおばさんの相手をする事になった。

注意して聞いていると、驚いた事に、おばさんは私にジュネーブの観光案内をしているのであった。

「あそこに見える噴水だけど、その噴射口までいけるから、行って見ると面白いわよ」

と大噴水を指差しながら言ったと思うと、今度は、湖越しに見える石作りの塔を指差して、

「あそこの教会の塔に上ると、レマン湖を一望できるわよ」

「お昼にするならこの辺は高いので、あそこの旧市街に行きなさい。安い店が集まっているわよ。」

とお昼の心配までしてくれた。

社会人になって5年も経つのに、おばさんには、あまりお金が無い学生に見えたらしい。言葉は英語とフランス語がチャンポンになっている様だった。

信号は青になり、他の人は渡り始めたが、親切に説明してくれるおばさんを残して渡る訳にも行かず、話が終わるのを待つしか無かった。このおばさんは、いつも私のような若者に観光案内をしているのだろうか？ 結局私だけ取り残されてしまった。

おばさんの観光案内はしばらく続いたが、一通り説明して満足したのか、何事も無かったかの様に去って行った。話しかけるのも突然なら、終わるのも何の前触れも無く、突然だった。信号を見るとすでに赤に変わっており、再び青になるのを待つ羽目になった私は、「もう誰も話しかけてこない様に」と願っていた。

1時間ほど湖の周囲を散策した私は、おばさんに言われた通り噴水の噴射口まで行き、昼食のレストランを探すために教えられた旧市街に続くなだらかな石畳の坂道を歩いた。そして昼食後はレマン湖を一望できるというサン・ピエール寺院の塔に登った。親切なおばさん、ありがとう！



サン・ピエール寺院の塔よりレマン湖を望む



レマン湖の大噴水とスイス国旗



レマン湖の大噴水と自転車



レマン湖に係留されているヨット